今月の15首　佐佐木幸綱・選

水の辺の夜が差し出す恍惚のアッシェンバッハのふりむける顔　中西由起子

鉱石のごとき蕾を巻き締めて椿のねむり深く長かり　峰尾　碧

林道を駆ける前夜の大雨が濡らした空気の粒感じつつ　木村　俊介

絶ゆることなく川薄く流れ水紋は型を守りて陽を反したり　岡田惠美子

むめさんの手紙はぎつしり五、六枚　香住の海の色思はせて　荻野美佐子

スカイプの画面に向かひ子が歌ふ「雨降りお月さん」の調子つぱづれ　大口　玲子

門を出る訪問入浴サービス車屋根につぶれた柿のせており　鈴木　陽美

犠牲者にクラスメートの名は見えず石巻中卒後七十五年　伊藤　長門

小さな物編む灯の下に眼鏡かけまこと静かな冬のはじめは　木島　泉

餌を食う命と餌になる命ラッコの食事時間はたのし　藤島　秀憲

噴煙がけふも上がりて風に乗り実に厄介な火山灰降りはじむ（まことやつけなへがふいでけた）　八汐阿津子

甘酒の湯気に目鼻をけぶらせてふき溜るがに家族の三人（みたり）　佐々木寛子

紅葉を見ることはなく東雲に妹はひとり逝きてしまえり　稲垣　国男

ベトナムに片足置いてきたと言い笑う人おり隣のベンチに　クリシュナ智子

晩秋の光ことごとく集いたり谷中み墓辺の銀杏を仰ぐ　宇都宮とよ